

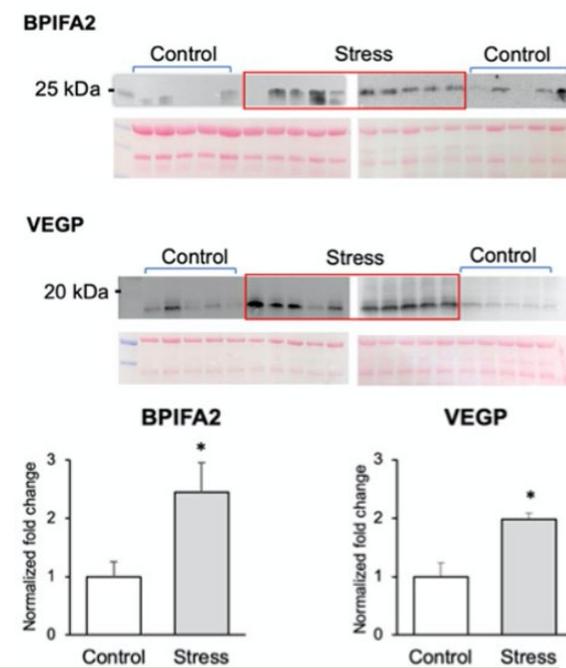


# 研究で明らかにしたこと

## ~唾液タンパクの探索~

慢性ストレス状態にあるラットはストレスのないラットに比べ、唾液のネバネバ感に関わるタンパク質BPIFA2と味覚の変化に関わる VEGP の産生が増加していました。

これらのタンパク質は、慢性ストレスによって生じるドライマウスや味覚障害の一因となっている可能性があります。



## ~口腔細菌叢の探索~

慢性ストレスラットでは、ストレスのないラットと比べ、口腔内細菌叢の細菌種の多様性が大幅に減少していることが明らかになりました。特に、FacklamiaとCorynebacteriumの割合は、2つのグループ間で大幅な変化を認めました。慢性ストレスにより口腔内細菌叢は口腔の健康を脅かす状態に変化していることがわかりました。この変化は、ストレスに起因する口腔疾患の発症に関与している可能性があります。

